

令和 6(2024)年度 日本体育大学大学院 保健医療学研究科 修士課程 学生募集要項

本研究科では令和 5（2023）年度に実施する入学試験からインターネット出願（以下、Web 出願という。）を開始します。出願前には、マイページ登録が必要です。時間には余裕を持って出願を行ってください。

なお、Web 出願時に登録されたメールアドレスには、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されますので、変更や削除の可能性がなく、日常的に確認できるメールアドレスを準備してください。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や試験実施内容等に変更が生じる場合があります。

試験実施に関する変更等については、本学のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

その他の入試に関する最新情報についても公表しますので、随時確認してください。

目 次

I. 保健医療学研究科が定める3つのポリシー	3
保健医療学研究科修士課程の概要	4
II. 受験要領	
1. 専攻・コース及び募集人員	5
2. 出願資格	5
3. 入学試験日程等	6
4. 選抜区分及び出願要件	6
出願資格認定審査について	6
5. 出願書類	8
在留外国人の方・外国の学校出身の方へ	10
6. 出願手続	11
7. 障がいのある入学志願者の事前相談について	11
8. 受験票について	11
9. 選抜要領	12
10. 受験上の注意	12
11. 合格発表	13
12. 入学手続	13
13. 学 費	14
III. 2024年度 研究指導教員及び研究指導領域【修士課程】	(巻末1~7)
研究指導教員連絡先一覧(研究指導補助教員を含む)	

《Web 出願の流れ、出願写真に関する注意事項》(別添1)

《各種様式・所定用紙等》(別添2)

「履歴事項等記載書(所定用紙1)」、「志望理由書(所定用紙2)」、「承諾書(所定用紙3)」、「在職証明書(所定用紙4)」、
「研究活動調書(様式)」、「入学試験に係る事前相談について」

「出願資格認定申請書(出願資格認定審査 所定用紙1)」、「学歴・職歴調書(出願資格認定審査 所定用紙2)」、
「研究歴・指導歴概要書(出願資格認定審査 様式)」

出願者の提出書類について

出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学試験及び入学後の学内諸手続以外の目的には利用いたしません。

※ I 期試験と II 期試験を受験する場合は、それぞれに願書が必要です。

I. 保健医療学研究科が定める3つのポリシー

1. 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、柔道整復学や救急・災害医療学における専門知識・技能・問題解決能力を有し、かつスポーツ救急に関する指導能力を備えた人材の育成を目指す。そこで、共通科目や専門科目を履修するにあたり、次のような資質を備えた入学者を求める。

1. 医療人としての倫理観を持ち、社会に還元する研究に取り組む意欲と能力を持つ者
2. 専門分野に関する基本的な知識・技能・問題解決能力を有し、EBMの重要性を認識している者
3. 将来、スポーツ救急に関する指導者として活躍していく意欲と能力を持つ者
体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者・研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独創的あるいは卓越した体育スポーツ科学あるいはその指導を実施するという意欲と能力をもつ者。なお、基礎英語力を有していることが望ましい。

2. 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幅広く深い学識の涵養を図り、スポーツ救急に関する指導能力、教育研究者としての卓越した能力を培うために、本研究科は以下の方針で理論的知識を基礎とし、「新時代の大学院教育」に記載されている課程制大学院制度に沿った教育目標を設定し、臨床現場や教育研究において実践・応用する能力が身に付く体系的なカリキュラムを編成する。

- (1) 高度専門職業人として習得すべき知識と基礎医学に立脚した問題解決能力を養成するために必要な科目を共通科目として配置する。
- (2) スポーツ救急に関する実践力及び指導力を養成する科目を必須科目として配置する。
- (3) スポーツ救急に関する指導者、教育研究者として、医学の進歩に適応し最新の医科学的知識と技術の修得に向けた専門科目を配置する。
- (4) 研究課題に対して科学的根拠に基づき検証する研究手法および発表能力を修得し、論文を作成・発表する能力を養成するための特別研究を配置する。
- (5) 医療人、研究者および教育者としての高い倫理観の醸成は欠かせないため、共通科目、両コースの専門科目および特別研究の科目の中で医療人としての倫理、研究者としての倫理、教育者としての倫理に関する講義を実施する。本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

3. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科では、本学の教育理念に基づき、総合的な医療人としての高い倫理観と高度な専門知識・技能・問題解決能力を有し、スポーツ救急に関する指導者や教育研究者となる人材の育成を目的としている。以下の要件を満たす者に学位を授与する。

- (1) 最新の医学や社会情勢を常に学ぶ姿勢を有し、研究課題に取り組むことができる。
- (2) 柔道整復学や救急・災害医療学における専門知識・技能・問題解決能力を有し、科学的根拠に基づく医療を実践できる。
- (3) 臨床現場における技術指導や研究手法を指導できる。

保健医療学研究科修士課程の概要

日本体育大学大学院保健医療学研究科修士課程は保健医療学の1専攻をもって構成されています。

1. 目的

広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要高度の能力を養うことを目的としています。

2. 専攻の構成

次の2種で構成されています。

- (1) 高度実践柔道整復師コース
- (2) 救急災害医療学コース

3. 課程修了の要件・学位

本研究科に2年以上在学し、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者には以下の学位が授与されます。

- ・高度実践柔道整復師コース「修士（柔道整復学）」
- ・救急災害医療学コース「修士（救急災害医療学）」

II. 受験要領

1. 専攻・コース及び募集人員

専攻	コース	募集人員
保健医療学	高度実践柔道整復師コース	8名（Ⅰ期募集、Ⅱ期募集あわせて）
	救急災害医療学コース	

2. 出願資格

【一般選抜】

〔高度実践柔道整復師コース〕

柔道整復師資格取得者及び柔道整復領域の研究に対する強い意欲がある者

ただし、柔道整復領域の研究に対する強い意欲がある者については、指導を希望する教員との事前相談で適性が認められた場合に限る

〔救急災害医療学コース〕

救急救命士または医師・看護師・保健師・助産師・歯科医師の国家資格取得者及び取得見込みの者で次のいずれかに該当する者

上記に定められた各コースの条件を満たす者で、次の各号のいずれかに該当する者に出願資格を与える。

- (1) 大学を卒業した者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）を文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和 6（2024）年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年文部省告示第 5 号)
- (8) 令和 6（2024）年 3 月末日で大学に 3 年以上在学し、優れた成績で所定の単位を修得したものと本大学院が認めた者
- (9) 本大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、入学時まで 22 歳に達する者

※重要

出願資格(8) (9) の該当者は、事前に出願資格審査が必要です。6 頁で確認し手続きをしてください。出願資格審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された者は本研究科の入学試験に出願することができます。

3. 入学試験日程等

出願期間 (Web出願登録、出願書類受付期間)	I期試験	II期試験
	2023年10月17日(火) ～2023年10月24日(火)	2024年1月12日(金) ～2024年1月19日(金)
試験日	2023年11月18日(土)	2024年2月17日(土)
合格発表日	2023年11月24日(金)	2024年2月22日(木)
入学手続締切日	2023年12月8日(金)	2024年3月8日(金)

4. 選抜区分及び出願要件

選抜区分	出願要件
一般選抜	「2.出願資格」に該当する者
社会人選抜	「2.出願資格」に該当し、且つ以下の(1)、(2)、(3)いずれかに該当する者 (1) 国家資格者（柔道整復師資格）として、入学時までに通算3年以上の実務経験が見込まれる者 ※高度実践柔道整復師コースのみ適用 (2) 入学時まで常勤・非常勤を問わず2年以上の社会的実務年数を有する者(見込み含む) ※救急災害医療学コースのみ適用 (3) 青年海外協力隊などで海外における社会貢献活動の経験を入学時に原則として2年以上有する者

※出願資格(8)、(9)の該当者は、事前に出願資格審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された場合に一般選抜にて出願することができます。

《出願資格認定審査について》

本大学院研究科では、「学校教育施行規則第155条第1項第8号の規定」により、前記「出願資格(8)、(9)」に該当する出願資格認定対象となる方について、出願資格の有無を判定するために予備審査を行います。

「出願資格認定審査」は、入学者選抜試験ではありませんので注意してください。

■審査基準

・修士課程の出願資格(8)で出願資格認定審査を受ける場合

出身大学および在籍する大学院における成績ならびに取得した資格等を総合的に判断します。

・修士課程の出願資格(9)で出願資格認定審査を受ける場合

本大学院保健医療学研究科修士課程での研究目的が明確で、修了後には本学での研究成果により当該コースで社会に貢献する意欲を有し、最終学歴卒業・修了後、各種の教育・研究機関等において、当該コース領域の研究に従事した期間が2024年3月31日現在で通算3年以上ある者で、次のいずれかに該当する者。

1) 高度実践柔道整復師コース

専門学校等を卒業し、柔道整復師として2024年3月31日現在で通算3年以上の臨床経験または実務経験を有する者。
3年の期間を短縮する場合は、柔道整復領域及びその関連学会等における発表や論文等の学術業績を考慮する。

2) 救急災害医療学コース

最終学歴卒業・修了後、各種の教育・研究機関等において、救急災害医療学領域における研究、あるいはそれに関連した専門的な業務に従事した期間が2024年3月31日現在で3年以上ある者。

3年の期間を短縮する場合は、救急災害医療学領域及びその関連学会等における発表や論文等の学術業績を考慮する。

■出願資格認定審査要領

審査を希望する方は、必ず大学院教学センターまで事前相談を済ませた上で申請願います。

出願資格認定審査には、下記書類の提出が必要になります。提出期日等を確認の上、お早目にご準備ください。

事前相談を済ませていない場合は申請できません。また、上記条件を満たした方すべてに受験資格が認められるとは限りませんのでご注意ください。

※出願資格認定審査に提出した書類内容に虚偽が発生した場合は、入学試験に合格した場合でも合格の取り消しとなりますので、ご注意願います。

・提出書類

出願資格(8)

- ① 出願資格認定申請書（出願資格認定審査 所定用紙1）
- ② 学歴・職歴調書（出願資格認定審査 所定用紙2）
- ③ 学業成績証明書
- ④ 厚生労働大臣が交付した免許証（写し）もしくは、免許取得の課程を修了見込みであることが証明できるもの
- ⑤ 受験承諾書（学長または学部長が発行するもの：様式任意）
- ⑥ その他コースで定める書類

出願資格(9)

- ① 出願資格認定申請書（出願資格認定審査 所定用紙1）
- ② 学歴・職歴調書（出願資格認定審査 所定用紙2）
- ③ 学業成績証明書
- ④ 卒業（見込）証明書（最終学歴のもの）
- ⑤ 研究歴・指導歴概要書（出願資格認定審査 様式）
- ⑥ 研究歴・指導歴、専門的な業務に従事したことを証明するもの
 - ・ 研究歴を証明するもの…教育・研究機関等の在職（在籍）証明書、研究歴証明書等
 - ・ 専門的な業務に従事したことを証明するもの…教育・研究機関等の在職（在籍）証明書等
- ⑦ 自己の著書、論文または国家資格等自己の能力を証するものがある場合は、当該著書、論文もしくは当該自己の能力を証する書類
- ⑧ 厚生労働大臣が交付した免許証（写し）もしくは、免許取得の課程を修了見込みであることが証明できるもの

・提出方法

封筒に、「出願資格認定審査書類在中」と朱書きし、必ず「**速達・特定記録**」扱いに必要な書類を大学院教学センターに郵送してください。（「特定記録郵便等受領証」を保管しておいてください。）

・提出先 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学 大学院教学センター

・書類提出期限（郵送のみ）

I期試験：2023年10月3日（火）必着

II期試験：2023年12月13日（水）必着

・審査結果 審査結果はI期：2023年10月中旬、II期：2023年12月中旬に電話連絡にて結果をお知らせします。

5. 出願書類

Web 出願以外の所定用紙は、別添《各種様式・所定用紙等》から A4 サイズで片面印刷してください。

PC で入力したものも可。

●：全員提出 △：該当者のみ提出

(注意：提出書類について) ① 提出書類のサイズは全て「A4 サイズ」で提出してください。 ② 自身で作成する所定用紙以外の書類は全て「A4 サイズ片面印刷」で提出してください。		提出該当者	
		一般 選 抜	社 会 人 選 抜
出願書類	連絡事項・注意事項		
(1)志願票・写真票	Web 出願完了後、Web 出願サイトより印刷してください。 余白および志願票・写真票は切り離してください。	●	●
(2)履歴事項等記載書 (所定用紙 1)	「学歴」欄は高等学校から記入してください。但し、外国の学校教育を受けたことがある者は小学校から記入してください。 大学、研究所等で研究生等として研究歴がある場合は、その期間も記入してください。	●	●
(3)志願理由書 (所定用紙 2)	必ず希望する研究指導教員と履修・研究等について相談し、指導の同意を得てください。 ・「2024 年度研究指導教員及び研究指導領域」、「研究指導教員連絡先」参照。	●	●
(4)学業成績証明書	出身大学長が作成し、厳封したもの。	●	●
(5)卒業(見込)証明書	出身大学長が作成したもの。 ※出願資格に関わるもの	●	●
(6)資格取得に関する証明書 ※ 日本体育大学保健医療学部在在学生については、卒業見込証明書で可とする。	厚生労働大臣により発行された以下の免許証(写し)または免許取得課程を修了見込みであることが証明できるもの(原本) ○高度実践柔道整復師コース ・柔道整復師免許証 ○救急災害医療学コース ・救急救命士免許証 ・医師免許証 ・看護師免許証 ・保健師免許証 ・助産師免許証 ・歯科医師免許証 上記のうち1つのみで可	●	●
(7)承諾書(所定用紙 3)	入学後に在職予定の者は、雇用責任者または代表者の承諾書を提出してください。	△	△
(8)在職証明書または派遣証明書(所定用紙 4) ※所定用紙と同内容であれば、所属機関が発行したもので可。	現在在職中で【社会人選抜】で出願する者 出願要件を満たすことを証明できる在職証明書または派遣証明書を提出ください。但し、ご事情により在職証明書が提出できない場合は、第 3 者の証明による書面等をご提出頂くことでも構いません。 在職証明書以外の第 3 者の証明による書面は、例えばハローワークで発行される雇用保険受給資格者証や、勤務先における健康保険証に記載の雇用開始日(資格取得年月日)により期間を確認することができますので、こちらのコピーを在職証明書の代わりに提出することも可能とします。		●

(9)研究計画書 (書式自由)	和文 2,000 字程度、A4 用紙片面使用、枚数制限なし。	●	●
(10)研究活動調書 (様式)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様式については、同様のものをパソコン等で作成したもので可とする。 ・ 著書、学術論文、翻訳、学会発表等を「著書」・「学術論文」・「その他」に区分し、それぞれの業績を年代順に記載してください。また、「学位論文」(修士論文または博士論文)は最後に記載してください。 ・ 概要欄は、論文、著書等ごとに 200 字程度で記入してください。共著の場合は担当部分及びページ数を明記し、全員の氏名を記載し、本人氏名に下線を引いてください。なお、共著の場合で本人の担当部分を明確にできないときはその理由を明記してください。 (例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能) ・ 学会誌、雑誌等はその名称の他、巻・号まで記入してください。 ・ 学会誌等に投稿予定のものは含めないでください。 ・ 記入欄が不足した場合は同一様式の別紙に記入し添付してください。 ・ 本研究科における研究計画の内容と特にかかわりのある「著書」、「学術論文」、「翻訳」、「学会発表の要旨」等がある場合は、それらを証明できる資料(コピー可)を添付してください。掲載予定のものについては、掲載証明書を添付してください。 ・ 「学位論文」(修士論文または博士論文)を添付してください。(コピー可) 		●
(11)外国籍を有する者の出願書類	<p>外国籍を有する者は、出願書類の他に、以下の①②の書類を提出してください。</p> <p>現に日本国内に在住し、在留資格が「特別永住者」、「永住者」の者は①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のみ提出。</p> <p>①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書(3か月以内に発行されたもので、国籍、在留資格、在留期間を明記したもの)</p> <p>②日本語能力を証明する書類</p> <p>日本留学試験(EJU)の成績証明書(日本語科目の読解、聴解・聴読解 240 点以上、記述 30 点以上の得点が必要です。)、または、日本語能力試験(JLPT) N2 以上の合格証明書</p>	△	△

在留外国人の方・外国の学校出身の方へ

★ 在留外国人の方は、必ず確認してください。

最終学歴の各種証明書について

日本国外（中国を除く）の大学・大学院を卒業・修了した方

卒業・修了証明書等に取得学位の記載がない場合には、学位取得証明書も提出してください。

中国の学校を卒業または修了した方は、「中国の学校を卒業・修了された方へ」に記載されている通りに書類を提出してください。

最終学歴の各種証明書は、原則として日本語または英語で表記された原本に限ります。

日本語または英語以外の言語で表記されている場合は以下の書類を提出してください。

各種証明書の原本※	出身学校から発行されたもの。 出身学校から1部しか発行されない場合は、公的機関が発行する Certified true copy でも構いません。
日本語または英語翻訳文※	大使館や自国公証処等の公的機関で認証を受けたものに限る。

※日本語教育機関（日本語学校等）が発行・認証するものは認めません。

中国の学校を卒業・修了された方へ

中国の学校を卒業・修了された方は、以下の書類を提出してください。

証明書類の入手に時間を要することが想定されます（申請から発行まで5週間程度かかる場合もあります）ので、早めに準備をしてください。

（1）卒業証書・卒業証明書「学歴認証書」（Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate）

CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

（2）成績証明書「成績認証書」（Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript）

CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は下記の注意事項をよく読んで手続きしてください。

（3）学位取得証明書「学位認証書」（Verification Report of China Higher Education Degree Certificate）

CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。

博士前期課程を受験する方は、学士学位（Bachelor's Degree）、博士後期課程を受験する方は、修士学位（Master's Degrees）を取得していることが証明されていること。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Degree Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

学歴、成績、学位の認証書は CHSI 中国高等教育学生信息网（<https://www.chsi.com.cn/en/pvr/>）が取り扱っています。

日本国内では CHSI 日本代理機構（<http://www.chsi.jp/>）での発行申請が可能です。

※1 電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CSSD 教育部学生服务与素质发展中心から直接、日本体育大学大学院教学センター（daigakuin@nittai.ac.jp）に電子メールで送信されるように申請してください。

志願者による電子メールの転送は出願書類として認めません。出願期間を過ぎた場合は出願を受理しないことがありますので、気をつけて手続きをしてください。

6. 出願手続

「Web 出願の流れ」を確認して手続きしてください。出願はWeb 出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録だけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web 出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日23時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

（1）入学検定料の支払い

入学検定料：1受験につき35,000円

Web 出願サイト「STEP 5（入学検定料の支払い）」に従って支払手続きをしてください。

（2）必要書類の郵送

Web 出願完了後に、Web 出願サイトより宛名シートを印刷し、貼付した角2封筒に提出書類を封入して、「速達・特定記録」扱いで郵送してください。なお、窓口出願は行っていません。（「特定記録郵便物等受領証」を保管しておいてください。）詳細については、「STEP 6（必要書類の郵送）」を確認すること。

①志願票・写真票（所定用紙）

入学検定料支払後、出力可能となります。A4サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。

②選抜毎の提出書類

詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

◎注意事項

① 不備のある出願書類や出願締切日後に到着した出願書類は一切受け付けません。

② 一度提出した出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。

【入学検定料の返還請求（払込手数料を除く）ができる場合】

・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。

・入学検定料を誤って二重に支払った。

③ 提出書類の内容に虚偽があった場合は、出願や合格を取り消すことがあります。

7. 障がいのある入学志願者の事前相談について

本学に入学を志願する方で、障がいのために受験上の配慮を必要とする方は、出願の前に、必ず事前相談をしてください。出願の際には下記の書類が必要となりますので、予めご了承願います。なお、重度の障害のある方は、できる限り早い時期にご相談ください。

《事前相談の方法》

事前相談の申請は、「申請書類」の「入学試験に係る事前相談について」を作成の上、医師の診断書などの必要な書類を添付して提出してください。

※ 提供いただいた個人情報は、支援内容検討のために関係部署と共有します。必要な書類に不明な点がある場合は、提出前に大学院教学センターに確認してください。

申請書類

1. 「入学試験に係る事前相談について」【必須】（所定用紙）

2. 医師の診断書【必須】（コピー可・書式自由）

3. 身体障害者手帳（写）【必須】

4. その他相談する際に必要と考えられる参考資料

8. 受験票について

出願書類到着後、Web 出願の登録内容をもとに本学が作成し、Web 出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください。（「STEP 7（受験票の印刷）」を参照）

※ 受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスメールで通知します。

※ 試験3日前までにWeb 出願サイト上に受験票が確認できない場合、大学院教学センターまで連絡してください。

9. 選抜要領

〔試験実施日〕

I 期試験：2023 年 11 月 18 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟

II 期試験：2024 年 2 月 17 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟

選抜区分	受付時間	試験時間	試験科目	実施要領等
一般選抜 社会人選抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 (60分)	・各コースに関する専門的知識を問う。 ・出願したコースに関する問題を解答する。
		10:50～11:50	英語 (60分)	・読解力を問う1問題を解答する。 ・語学辞書の使用可
		12:10～	口述試験	【一般選抜】出願書類に基づき、研究課題や入学後の研究計画等について日本語で問う。 【社会人選抜】出願書類に基づき、研究課題やこれまでの研究経過（職務経験を含む）及び入学後の研究計画等について日本語で問う。

10. 受験上の注意

(1) 試験当日の注意事項

① 持参するものについて

「受験票」、「筆記用具」、「時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)」、「昼食・飲み物」(任意)

※受験票を紛失または忘れた場合は、試験当日、受付に申し出てください。

② 受付で受験票を提示してください。受付後は、速やかに指定された試験場へ入室してください。また、受付後に担当者の許可無くキャンパス内を出歩くことはできません。なお、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。

③ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切り、すべての試験が終了するまでかばん等にしまってください。これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っているとは不正行為となることがあります。

④ 車ででの来校はできません。公共交通機関をご利用ください。

試験前日までに可能な限り試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

⑤ 試験開始後 30 分を超えた遅刻は認めません。

⑥ 公共交通機関の事故等により、受付時間に間に合わない場合は、直ちに大学院教学センター（03-5706-0915）へ連絡するとともに、交通機関において遅延証明書の交付を受けてください。

インフルエンザ等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験生に感染するおそれがあるため受験はできません。

(2) 試験時間中の注意事項

① 「受験票」は、試験担当者が見やすいように机の上に置いてください。

② 「受験票」の他に試験時間中、机の上に置けるものは、以下とします。

- ・ 黒鉛筆 (HB)、シャープペンシル (HB)
- ・ 鉛筆キャップ
- ・ プラスチック製消しゴム
- ・ 鉛筆削り (電動式・ナイフ類を除く)
- ・ 時計 (辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)
- ・ 眼鏡
- ・ ハンカチ

・ ティッシュペーパー（袋または箱から取り出した紙のみであること）

・ 目薬

※ 英語試験時に限り、語学辞書の使用が可能です。なお、英語試験時に使用可能な辞書とは、「英和辞書」、「中日辞書」、「韓日辞書」等の語学辞書に限ります。電子辞書、電子手帳等は使用できません。また、医学等専門用語の語学辞書は使用できません。（付箋等は予め取り除いてください。）

③ 「耳せん」は、試験担当者の指示等が聞き取れないことがありますので試験場内では使用できません。

④ 試験時間中に退室はできません。体調不良またはトイレ等やむを得ない場合には、手を挙げて試験担当者の指示に従ってください。但し、一時退室が認められた場合でも、一時退室した間の試験時間の延長はできません。また、別室での受験もできません。

⑤ 試験時間中は、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為となることがあります。

11. 合格発表

○ I期試験（11月実施）：2023年11月24日（金）10時

○ II期試験（2月実施）：2024年2月22日（木）10時

合格発表は合格者のみ通知します。学内掲示は行いません。本学の正式な合格発表は、合格発表日に合格証明書等の発送をもって行いますが、受験生の便宜を考慮し、「合否照会システム（インターネット）」による合否案内を行います。

なお、不合格通知書は送付いたしません。また、本学に直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けませんので、下記照会方法をご確認ください。

（1）利用方法・注意点

① インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。

② 合否照会について、「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。

③ 合否発表当日は混雑のため回線がつながりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。

④ 合否照会システムの利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間		
I期試験	2023年11月24日（金）～2023年11月26日（日）	初日10:00～
II期試験	2024年2月22日（木）～2024年2月24日（土）	最終日23:59まで

（2）インターネット（携帯電話・パソコン）での照会

<https://www.gouhi.com/nittai/>



合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。

また、本学ホームページ（<https://www.nittai.ac.jp/>）より、上記アドレスへアクセスできますので、ご利用ください。

12. 入学手続

（1）入学手続時納入金の手続締切日

I期試験：2023年12月8日（金）

II期試験：2024年3月8日（金）

① 入学手続時納入金は、合格証明書に同封されている所定の「振込用紙」を使用し、手続締切日までに金融機関窓口で手続を行ってください。

② 合格者で手続締切日までに入学手続時納入金が未納だった場合は、入学辞退とみなしますので注意してください。

③ 振込金受領書（本人保存）は、入学手続をした証明になりますので大切に保管してください。

(2) 入学辞退について

【窓口】 2024年3月29日（金） 17:00まで

【郵送】 2024年3月31日（日） 消印有効（速達・簡易書留としてください。）

入学手続時納入金を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届（所定用紙）を提出してください。
入学金を除く納入金を返還します。なお、返還には期間を要しますので、早急に手続きをしてください。

○提出先：東京・世田谷キャンパス 大学院教学センター

〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1

TEL：03-5706-0915

事務取扱時間：平日 8:30～17:00

冬季一斉休業期間：2023年12月28日（木）～2024年1月5日（金）

13. 学 費

授業料は全額の1/2相当額を後学期に分納することができます。その場合、入学手続時の納入金額は、入学金・授業料（前学期分納分）・健康管理費・学友会費・同窓会準会員費の合計金額となります。後学期は授業料（後学期分納分）のみとなります。

2024年度 日本体育大学大学院保健医療学研究科 修士課程学費等一覧

（円）

費 目		納入期		金 額	
				日本体育大学以外の卒業生	日本体育大学卒業生
①学 費	入学金	入学時のみ		300,000	150,000
	授業料	分納可	前学期	400,000	400,000
			後学期	400,000	400,000
健康管理費	前学期		10,000	10,000	
②その他 費用	学友会費	前学期		13,000 (入会金1,000円を含む)	12,000
	同窓会 準会員費	入学時のみ		10,000	0
総合計 (①+②)		年 額		1,133,000	972,000
		分納の場合	前学期	733,000	572,000
			後学期	400,000	400,000

※1 修士課程は厚生労働省の「教育訓練給付制度（一般教育訓練）」給付金対象講座です。

※2 令和6年度からの奨学金制度の改正（「大学院（修士課程）の授業料後払い制度」の創設）があります。

「高等教育の修学支援新制度」の対象者で上記制度の利用を希望する方は、事前に大学院教学センターまでお問い合わせください。

《寄付金について》

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。

但し、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

●「国の教育ローン」（教育貸し付け）について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和54年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫（日本公庫）が扱っています。

詳しくは教育ローンコールセンター 0570-008656（03-5321-8656）、または「国の教育ローン」で検索、<https://www.jfc.go.jp/>から「国の教育ローン」を選択してください。

2024年度 研究指導教員及び研究指導領域【修士課程】

(50音順)

コース	教員名	研究指導領域
高度実践柔道整復師コース	准教授 石山 信男 修士(体育学)	研究分野：アスレティックトレーニング学、スポーツ医学、柔道整復学
		研究内容のキーワード：アスレティックトレーニング、コンディショニング、テーピング、冷却、疫学調査、スポーツ外傷・障害の予防
		<p>スポーツ活動現場におけるテーマの一つであるコンディショニングの目的である</p> <p>① パフォーマンス発揮</p> <p>② 外傷・障害予防</p> <p>を研究テーマの主軸として</p> <p>1) アスレティックトレーナー環境調査</p> <p>2) テーピングの方法の効果検証</p> <p>3) 水を利用したコンディショニング方法の検討・検証</p> <p>4) 冷却方法の効果検証</p> <p>5) 外傷・障害予防、疫学調査</p> <p>を通してスポーツ現場で科学的根拠に基づく柔道整復術を深める研究をすすめる。</p>
	教授 伊藤 謙 博士(医学)	研究分野：柔道整復学
		<p>研究内容のキーワード：運動器外傷、スポーツ外傷、運動器疾患の評価、コンディショニングと外傷予防、柔道整復師養成教育</p> <p>柔道整復の日常業務(施術)に関する疑問をもとに、以下のような課題について検討します。</p> <p>① 手技療法、物理療法、運動療法の効果について</p> <p>② 筋や靭帯等の超音波観察装置を用いた評価について</p> <p>③ シミュレーターを用いた教育手法の開発</p> <p>これまでに、当研究室で修士号を取得した院生の研究テーマは以下の通りです。</p> <p>① 大学男子ラグビー選手を対象とした下肢の外傷・障害既往歴に関する検討</p> <p>② 高周波通電刺激が筋硬度と筋収縮特性に及ぼす影響</p> <p>③ 大学男女サッカー選手の傷害既往歴に基づく下肢の身体的特徴に関する検討</p> <p>④ 足関節への急激な内反刺激による腓骨筋の反応</p> <p>⑤ シューレースの締め方が静止立位時の重心動揺、歩行と片脚幅跳び跳躍距離に及ぼす影響</p> <p>⑥ 徒手およびストレス負荷装置による足関節前方引出し時の超音波画像診断装置による評価 - 足関節捻挫に対する前方引出しテストの信頼性向上を目標として -</p> <p>⑦ 脱臼・骨折シミュレーターを用いたコレス骨折の徒手整復に対する教育手法の検討</p> <p>⑧ 投法の違いが前腕屈筋群の筋硬度に及ぼす影響 - 柔道整復師による投球障害肘予防法の確立を目指して -</p> <p>また、2023年度に在籍している院生(修士課程)は、①育成年代の女子サッカー選手を対象としたコンディショニング(特に睡眠)と運動パフォーマンス及び障害発生の関連について、②リトルリーガーを対象とした障害と運動パフォーマンスの関連について、③物理療法と温熱療法の効果的な施術方法について、これらの研究に取り組んでおり、日本柔道整復接骨医学会学術大会や日本アスレティックトレーニング学会等で発表しています。</p>

コース	教員名	研究指導領域
高度実践柔道整復師コース	准教授 稲川郁子 博士(教育学)	研究分野：柔道整復学、教育学、柔道
		研究内容のキーワード：柔道整復師、教育、柔道
		柔道整復師と教育のあり方をめぐる以下のような研究課題について、特に質的手法を用いて検討します。 ① 柔道整復師の熟達化 ② 柔道整復師による一回起性の高い臨床経験のアーカイブ化 ③ 柔道整復師養成施設と教育 ④ 嘉納思想と柔道整復師
	教授 岡田隆 博士(体育科学)	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション
		研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、減量、除脂肪、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、体幹筋、ボディビル、柔道、コリジョンスポーツ
		トレーニング科学領域 ① 領域特異的な筋活動に関する研究(限局的な部位に効果的なトレーニング方法の開発) ② 対象筋の筋活動を増強する内部意識集中を利用したトレーニング方法の開発 ③ 体幹深部筋のトレーニング方法の開発 ④ 効果的な体脂肪除去方法(除脂肪)の開発 ⑤ 睡眠と筋肥大、除脂肪に関する研究 など スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション領域 ① 腰痛 ② 頸部痛 ③ 椎間板変性(腰部、頸部) ④ 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御 など
	准教授 上倉將太 博士(スポーツ健康科学)	研究分野：トレーニング科学、アスレティックリハビリテーション
		研究内容のキーワード：アスレティックリハビリテーション、運動療法、スポーツ理学療法、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング
		運動器の外傷・障害に対して、その疾病構造を理解し、臨床推論を基に病態を改善する運動療法とそれらの障害予防について検討する。 主な研究調査領域として、外傷・障害に対する治療選択について検討する。対象が高齢者の場合は、介護予防を目的とした身体機能改善について、若年者においては健康増進を中心に調査する。また、アスリートに対して、球技選手を中心としたコンディションチェック方法の確立と積極的なリハビリ方法について、さらには下肢の障害予防を中心に研究を行う。
教授 久保山和彦 博士(体育科学)	研究分野：総合人文社会学	
	研究内容のキーワード：医療人類学、歴史人類学	
	医療人類学(治療関係論)、武道技術史(柔術活法論・伝統医学論)、保健医療社会学等の研究手法を用いて、スポーツ(武道)・医療の分野に関する総合的研究を行う。具体的には、2つのフレームで研究を進める。 ① 身体機能・技術に関するスポーツ医科学の知見を基盤研究として、 ② 人と人との関係性をエスノグラフィーや歴史科学により分析していく。 研究コンテキストとして、伝統医学の現状把握、また近年における事理両面の変容過程を探求する事で、運動予防論、柔道整復術の適応、臨床教育等の現代的課題に対して、新たな知見を提供する。	

コース	教員名	研究指導領域
高度実践柔道整復師コース	教授 小嶋新太 博士(医学)	研究分野：スポーツコンディショニング・柔道の歴史
		研究内容のキーワード：身体組成・筋力測定・歴史
		スポーツコンディショニングに関する研究 1) 運動競技で起こる外傷・怪我についての研究 ・運動時に起こる脱臼・骨折についての分析 ・運動時に起こる靭帯損傷についての分析 ・運動時に起こる脳震盪の発生率についての分析 2) 柔道の歴史に関する研究 ・嘉納治五郎師範の生い立ちについての研究 ・オリンピックと柔道の関連性についての研究 ・柔道と柔道整復師の歴史的研究
	講師 小林喜之 博士(医学)	研究分野：複合領域
		研究内容のキーワード：柔道整復学、外傷学、動作分析 運動器の外傷や障害に対する病態の解明及び受傷機転の解析、治療法について研究していく。 特に形態・機能解剖に基づく動作解析、対象がアスリートや高齢者であれば一般的な外傷や障害との比較検討し、予防的観点も踏まえて研究する。また、柔道整復学領域の専門的知識と臨床技術を駆使して治療方法について検証していく事で、健康保持・増進や身体機能改善などの効果が結果として現代社会に良い方向へと導けるよう検討していく。
	教授 白石聖 修士(体育科学) 博士(医学)	研究分野：運動器測定評価学、衛生学公衆衛生学
		研究内容のキーワード：骨格筋循環、関節アライメント、スポーツ傷害、傷害予防、ヘルスプロモーション
		健康の保持・増進に資することを目的とし、加齢による運動器機能の低下や外傷や障害の発生に関する構造的・機能的要因について研究を行う。修士課程では臨床から生まれた研究課題など比較的広い範囲を対象として科学的な分析を行う。 ① 骨格筋循環と筋機能低下および外傷・障害発生に関する研究 ② 関節アライメントと運動機能低下および外傷・障害発生に関する研究 ③ 健康寿命延伸のための歩行能力の保持・向上に関する研究
	教授 橋本俊彦 博士(医学)	研究分野：スポーツ医学、整形外科学、運動学
		研究内容のキーワード：スポーツ外傷、要因分析、受傷機転の解析
		スポーツ外傷は、環境的要因、身体的要因、心理的背景などの発生要因が複合的に誘因となり、受傷時の身体部位に生じる衝撃によって病態が決定される。この一連の過程に関連する以下の項目を研究テーマとする。 ① スポーツ外傷の発生する要因分析 ② スポーツ外傷における受傷機転の解析 ③ スポーツ外傷の予防

コース	教員名	研究指導領域
高度実践柔道整復師コース	准教授 服部辰広 修士(保健医療学)	研究分野：運動器外傷学
		研究内容のキーワード：柔道整復術、外傷・障害調査
		<p>柔道整復学の構築に関する研究 柔道整復師が行う治療（整復法・固定法・後療法）は経験に基づくことが多く、科学的根拠が必ずしも明確ではありません。伝承的に受け継がれる手技・手法について、科学的根拠に基づき以下の調査・研究を実践し、柔道整復学の構築について検討します。</p> <p>① 外傷・障害発生に関する疫学調査 ② 柔道整復師が行う治療法の科学的検証</p>
	准教授 樋口毅史 博士(医学)	研究分野：複合領域
		研究内容のキーワード：柔道整復学、運動器外傷学、重心動揺、障がい者スポーツ
		<p>① 柔道整復術が社会におよぼす影響について、施術方法、施術内容、施術料金等に関する検討。 ② スポーツ現場における柔道整復師の役割・将来の可能性に関する検討。特に障がい者のスポーツに対する柔道整復師の役割について。 ③ 運動器損傷の対処とスポーツ医との連携に関する検討。 ④ 小児から高齢者に対する外傷予防に関する検討。特に動的重心動揺特性について基礎的な研究。</p>
		教授 平沼憲治 博士(医学)
	研究内容のキーワード：スポーツ外傷・障害の予防、診断、治療、リハビリテーション	
	スポーツ外傷・障害の予防、診断、治療、リハビリテーションに関する研究。特にスポーツの現場で長期間のリハビリを要す外傷・障害（腰椎々間板ヘルニア、肉離れ損傷、疲労骨折等）を研究テーマとしている。	
	准教授 松田康宏 修士(情報学) 博士(工学)	研究分野：生体医工学
		研究内容のキーワード：血流計測、手技療法、物理療法
		柔道整復師が行う様々な施術によって筋血流が変化するとされている。しかし、それらの研究は他の医学分野に対して立ち遅れ、科学的な根拠に基づいた評価方法がまだ確立されていない。そのことから、柔道整復師が行う徒手的に行う手技療法やストレッチング、医療機器を使用した物理療法などの治療法が筋肉血流にどのような影響を及ぼすのかを明らかにするための研究を進めていく。
准教授 渡邊学 博士(体育科学)	研究分野：アスレティックリハビリテーション、トレーニング科学	
	研究内容のキーワード：スポーツ外傷・障害、障害予防、身体の構造、アライメント、身体動作	
	<p>運動器の外傷と障害を研究テーマとする。 多様化する対象者の病態を理解し人々を支援する専門領域として、障害予防におけるアライメント評価とトレーニング方法に関する領域を研究する。 研究の実施は、身体の構造とアライメント、身体動作の3つを基盤とする考えを軸とし、臨床に直結した研究を進める。また、柔道整復師における高度な専門知識と臨床技能の知見を深め、臨床で生じる疑問に対して、その現象を解明することを研究課題として検討する。</p>	

コース	教員名	研究指導領域
救急災害医療学コース	教授 小川 理郎 博士(医学)	研究分野：医歯薬学
		研究内容のキーワード：救急蘇生、災害医療、多発外傷の診断と治療、メディカルコントロール、救急医学・医療教育
		<p>① スポーツ救急医療における重篤化のメカニズムと救急医療体制について。</p> <p>② 蘇生理論に基づいたすべての心肺蘇生法について、また蘇生後の多臓器障害などの病態と実社会との関わりについて最新のエビデンスを基に学習する。</p> <p>③ 地域の各災害現場から実践的な地域災害医療体制と今後の災害医療について、また特殊災害医療についても学習する。</p> <p>①～③において特に病院前救護とMC (MC：Medical Control) 体制についての関わりについて学習し、また海外のPrehospital medical system についても学習する。</p> <p>これらの研究計画、実行方法、データ解析、論文作成などについての基礎を習得する。</p>
	教授 川上 康彦 博士(医学)	研究分野：臨床医学、臨床救急医学、小児神経学
		<p>研究内容のキーワード：てんかん・酸化ストレス・脳波</p> <p>神経救急領域の研究を行います。救急現場で遭遇する可能性の高いけいれん・てんかん等の神経疾患について、疫学・病態解析・救急医療体制を検討します。特に病態生理を加味した、効率的な救急医療体制の構築を目指します。</p>
	助教 鴻崎 香里奈 博士(体育科学)	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
		研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質、筋ジストロフィー、代謝、実験動物
		<p>スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が骨格筋機能および構造へ及ぼす影響について、細胞・分子レベルで検証をおこないます。主に実験動物や培養細胞を用いた研究を展開していきます。研究テーマについては事前に相談した上で決定します。</p> <p>研究によって得られる成果は、スポーツ現場や医療現場へ積極的に応用することを目指します。</p>
	准教授 鈴木 健介 博士(医学)	研究分野：救急医学、災害医学、病院前救急救命学
		研究内容のキーワード：仮想現実、学校における災害時の対応、学校における緊急時の対応、災害医療ロジスティクス、ファーストレスポnder、データベース、熱中症
		<p>修士課程では、研究の基礎を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理を学ぶ ・先行研究を調べまとめる ・研究計画を作成し倫理委員会に研究計画を提出する ・パイロットスタディを実施する ・パイロットスタディの結果をまとめる ・研究計画を修正する ・研究計画を実行する ・統計学的な解析を行う ・結果をまとめ表や図を作成する ・考察をする ・学術論文を作成する ・抄録を作成する ・学術集会で発表する <p>以上の過程を、自ら実行し、研究者としての基礎を学ぶ。</p>

コース	教員名	研究指導領域
救急災害医療学コース	准教授 中澤真弓 修士(健康科学) 修士(防災政策)	研究分野：救急医療・救急医療政策・消防
		研究内容のキーワード：救急救命士・救急医療・消防・女性活躍
		救急業務の社会問題解決を目指した救急医療政策及び防災政策についての研究を行います。 ① 心停止からの社会復帰率向上を目指した救急医療政策研究 ② 救急車適正利用、需要対策についての検討 ③ 予防救急、Pre-ambulanceの検討 ④ 救急隊の効果的な活動方策 ⑤ Pre-hospitalにおける女性活躍推進
	教授 橋本典生 博士(医学) 修士(工学)	研究分野：医学
		研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、スポーツ喘息、呼吸機能
		慢性閉塞性肺疾患(COPD)の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。 主な研究内容。 ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3系多価不飽和脂肪酸やn-6系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性
	准教授 山田真吏奈 博士(医学)	研究分野：医歯薬学、教育学
		研究内容のキーワード：感染症、行動薬理 災害や救急現場で遭遇する緊急度の高い疾患について生物学的・疫学的な手法を用いることで、病態解析、予後予測法(バイオマーカー)および治療方法の開発を検討しています。 メッセージ：豊かな人間性と研究能力を備えた人材の育成を試みています。研究者として、病で苦しむ患者様に笑顔を届ける研究をしてみませんか？
	教授 横田裕行 医学博士	研究分野：災害医学、医療倫理、地域医療構想
		研究内容のキーワード：災害医療、病院前診療・救護、地域包括ケア、終末期医療
		地域医療構想の医療体制構築の中で救急災害医療という視点からその課題と解決法に関して検討する。特に、以下の三点を中心に検討する。同時に救急医療が抱える課題について広い視点から解決策を提案する。 ① 医療倫理と人生の最終段階における在宅医療と救急医療のあり方を標準的概念である医療倫理の四原則(Beauchamp & Childress: 1979)からの検討と、最新の概念であるSDM(Shared decision Making)の考え方からその相違と今後の課題について、地域包括ケア体制の視点から検討する。 ② 在宅や高齢者施設から救急医療機関への搬送時の傷病者の様々な身体所見とバイタルサインの評価と重症化の危険因子を統計的手法による解析し、同時に機械学習(AIなど)などの新手法から検討する。 ③ 大規模災害時の超急性期対応(フェーズ1)から発災後1～3ヵ月の慢性期(フェーズ4)において地域包括ケアの枠組みがどのように機能すべきか、またその課題はどこにあるかを検討する。 ④ 救急医療を担う今後の人材教育や活躍のための課題を検討し、提言する。

【修士課程】研究指導教員連絡先一覧（研究指導補助教員を含む）

（教員資格欄）指導－研究指導教員、（補助）－研究指導補助教員

市街局番・東京(03)・横浜(045)

教員資格	氏名	フリガナ	所属専攻・コース（兼任）	東京・世田谷 キャンパス	横浜・健志台 キャンパス	メールアドレス	
あ	指導	石山 信男	イシヤマ ノブオ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-7993 ishiyama@nittai.ac.jp	
	指導	伊藤 譲	イトウ ヌヅル	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-6245 itoh@nittai.ac.jp	
	指導	稲川 郁子	イナガワ イコ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-1519 inagawa@nittai.ac.jp	
	指導	岡田 隆	オカダ タカシ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース	5706-1024		t-okada@nittai.ac.jp
	指導	小川 理郎	オガワ リチロ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7292 stream@nittai.ac.jp	
か	指導	上倉 将太	カミクラ ショウタ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-3421 s-kamikura@nittai.ac.jp	
	指導	川上 康彦	カワカミ ヤスヒコ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7634 kawakamiy@nittai.ac.jp	
	指導	久保山和彦	クボヤマ カズヒコ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-6332 kuboyama@nittai.ac.jp	
	指導	鴻崎香里奈	コウザキ カリナ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7820 kouzaki@nittai.ac.jp	
	指導	小嶋 新太	コジマ アラタ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース	5706-1037		kojimajudo@nittai.ac.jp
	指導	小林 喜之	コバヤシ ヨシキ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-3487 y-kobayashi@nittai.ac.jp	
さ	指導	白石 聖	シロイシ キヨシ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-1732 shiroishi@nittai.ac.jp	
	指導	鈴木 健介	スズキ ケンスケ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		479-6278 k-suzuki@nittai.ac.jp	
な	指導	中澤 真弓	ナカザワ マユミ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7294 nakazawamayumi@nittai.ac.jp	
は	指導	橋本 俊彦	ハシモト シンペイ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-1286 hashimoto776@nittai.ac.jp	
	指導	橋本 典生	ハシモト ミツオ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース	5706-0862		mitsuo-hashimoto@nittai.ac.jp
	(補助)	服部 辰広	ハツリ タツヒロ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-5384 t-hattori@nittai.ac.jp	
	指導	樋口 毅史	ヒグチ ケイシ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-5374 t.higuchi@nittai.ac.jp	
ま	指導	松田 康宏	マツダ ヤスヒロ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-5269 ymatsuda@nittai.ac.jp	
や	指導	山田真吏奈	ヤマダ マリナ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7620 myamada58@nittai.ac.jp	
	指導	横田 裕行	ヨコタ ヒロユキ	保健医療学専攻 救急災害医療学コース		507-7293 yokota@nittai.ac.jp	
わ	指導	渡邊 学	ワタナベ マナブ	保健医療学専攻 高度実践柔道整復師コース		507-1343 watanabe-ma@nittai.ac.jp	